

事業名（団体名）教良木河内地区公共交通のあり方研究事業（教良木河内活性化協議会）

事業の目的、概要：現在、本地区での路線バスの利用者は少ない状況にあり、以前県立松島商業高校が立地していたことから、拠点として位置づけられているものの、路線バス相互等の交通結節点としての機能を喪失している状況にある。また、他路線の重複が見られるなど、運行効率性が低い状況にある。さらに、通院や買物の拠点までの距離が長く、乗合タクシー導入にも課題が挙げられる。

こうした状況や課題を踏まえ、交通事業者に依存しない形で地域が主体となる地域公共交通の仕組み等の調査・研究を行うことで、将来にわたり持続可能な地域公共交通体制を確立することを目指し、令和元年度事業を実施した。

事業の内容

- ・住民・交通事業者・行政３者によるワークショップの開催（年３回）
- ・教良木河内地区全世帯住民アンケートの実施
- ・国土交通省九州運輸局熊本運輸支局による「道路運送法等関係法令の概要」の講演会開催
- ・愛媛県八幡浜市役所による「ＮＰＯ法人にこここ日土、八幡浜市公共交通空白地における移動手段確保に関する取組」の講演会開催
- ・菊池市あいのりタクシー事業の視察

総事業費

	調査研究	人材育成	計
支出（備品購入費）	68,640	—	68,640
支出（消耗品費）	23,270	3,300	26,570
支出（報償費）	—	13,000	13,000
支出（旅費）	—	84,270	84,270
支出（使用料及び借上料）	—	83,080	83,080
支出（役務費）	432	4,410	4,842
支出（消費税）	7,352	—	7,352
収入（まちづくり事業推進助成金）	99,000	188,000	287,000
収入（自己資金）	694	60	754

事業の成果：今年度は、教良木河内地区における地域公共交通のあり方について、住民・交通事業者・行政の３者による組織体を立ち上げ、それぞれが抱える課題の整理を共有し、地区住民の移動ニーズ等を把握することで、これからの本地区の公共交通のあり方を考えていく上で、基礎となる研究ができた。

また、今年度の取組を通じて、本地区が目指すべき将来像をイメージできたことから、次年度には事業をさらに深める研究を実施していくこととしたい。

写真・図表などを挿入

事業実施の分かる効果的な写真・図表
（例 事業前→事業後の写真など）

【八幡浜市講演会の様子】



【ワークショップの様子】

